

計画演習 II

09 1. 神戸ウォーターフロント計画

開講年次：学部4回生前期

[担当教員(前半)]
各研究室指導教員

■六甲山系と大阪湾に挟まれた東西 30km に渡る神戸市の市街地は、山から海へと向かう南北約 2.5 ~ 4km 傾斜地の上に発達してきた。多くの河川や道路などが無数の小さな南北軸を形成している。今回の演習では、神戸市の市街地の構造を理解し、スベイン・バルセロナの市街地に発達しているような海へ向かう軸線=RAMBLA の東として、生活都市・神戸をとらえなおす試みを行う。前半課題はグループによるリサーチとマスタープランの計画を行う。

- 前半課題の進め方
- ・3人程度のグループで行う(ゼミ単位が基本形)。
 - ・指導は各ゼミにおいてエスキスをを行う。
 - ・中間の進捗チェックと講評会を行う(栗山・山口が担当)。後記のスケジュール参照。

■課題内容

- ・神戸市市街地の南北軸を構成する道路を含む幅 100m 程度の区域を選定し、そのエリアを再活性化するための計画を策定し、その計画を先導するハードウェア(建築・ランドスケープ)の提案を行う。

- [前半課題]
- ・課題の理解・・・ディスカッション・文献調査・資料収集
 - ・フィールドワーク・・・探集(スケッチ・撮影・インタビュー)
 - ・分析・・・現況図作成、土地利用、ストリート・ファサード等
 - ・マスタープラン・・・将来像の提示、デザイン・ガイドラインの策定

■課題への取り組み方・ポイント

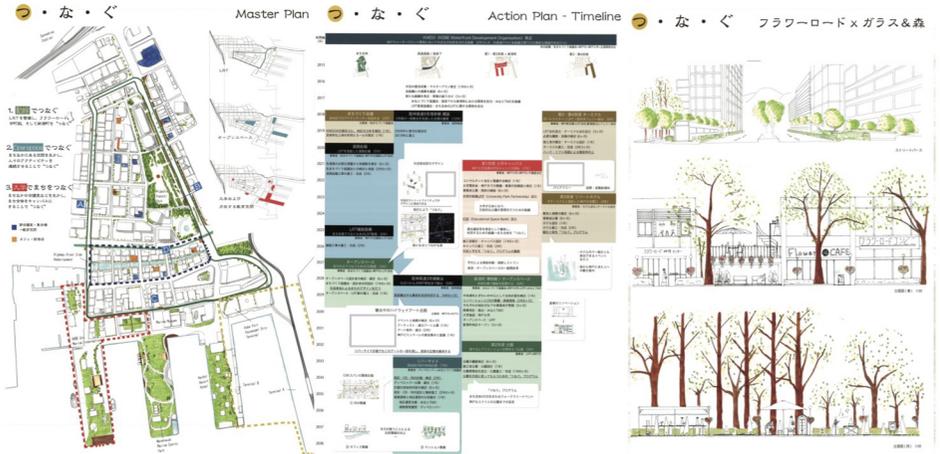
今回の課題は南北に細長く、かつ海に向かって傾斜を持った地区の将来像を考えるという性格を持っている。したがって、下記の様な課題に対して、どのように取り組むかがポイントになってくるだろう。

- ・線状のアーバニズムゾーンによるのではなく、場所が連続していくことによる地域のアイデンティティを創出できるか。
- ・ペDESTリアン・シティ=スロー・シティ
東西方向の高速・大容量の交通に対して、生活や身体のスケールを意識した都市空間を描き出せるか?
- ・ビュー・ポイント、緑地、空地のマネージメント
南北方向の人々の流れ、連続性を如何にして生み出せるか?
- ・環境ストックの活用
追加するだけでなく、環境を丁寧に読み取ってコンバージョンや減築といった多様な開発手法を駆使する。
- ・新旧の対話をデザインする。
- ・東西方向の大容量インフラとの接続・トランジットをデザインする。
- ・通過していく交通に対する態度をデザインする。
- ・実際の河川・水辺にこだわる必要はない。
- ・対象地が海まで到達していることは必須ではない。

つ・な・ぐ

大西・鈴木研究室

神戸港の歴史的調査や現状分析を行い、分断された三宮のまちと港を「つなぐ」提案である。まず、起爆剤として港湾部に神戸大学の海事研究所を置き、まちなかの空き会議室・ギャラリー・スタジオを大学の教室として貸借するシステムを作り上げる。つぎに湾岸部高速高架を一部撤去し、交通量をシフトするために LRT を新しく導入する。その道路工事に伴ってフラワーロード、京町、新港町それぞれの景観を統一する。こうして既存のオープンスペースの再整備事業を含め、人々のアクティビティを駅から海まで連続させるアクションプランを作成した。



[担当教員(後半)]

ランドスケープ設計課題

長濱伸貴(神戸芸術工科大学准教授) 福岡孝則(特命准教授)

ランドスケープ計画課題

北後明彦(教授) 大西一嘉(准教授) 近藤民代(准教授)

栗山尚子(助教) 山口秀文(助教)

[Teaching Assistant]

楠目晃大(A62) 小林璃央(A62)

■到達目標

1. 中規模の敷地における都市のコンテキストを読み解き、適切な動線計画と空間配置ができること

2. 対象敷地と前半課題で取り組んだ軸及び都市スケールの戦略との関係を意識しつつ設計を進めること(細部⇄全体)

3. 敷地内の建築・ランドスケープ空間の中で減築による新しい空間の挿入、既存建築・ランドスケープ空間のコンバージョン/リノベーションの手法を学び、神戸の都市戦略に対応した設計を行えること

4. 都市内の回遊性を高めるための建築・ランドスケープのレベル操作、ボリューム・ポイドの戦略的な配置及び構成ができること。

5. ランドスケープ空間(ソフト・ハード)の操作、屋外空間のアクティビティ・プログラムに対応した多機能型の空間の操作、利用形態や身体性を意識したスケール、構造物、素材の設定ができること

■課題設定の背景

六甲山系と大阪湾に挟まれた傾斜地上に発達した神戸市は東西南方向への強い軸と河川や道路など無数の小さな南北軸によって形成されている。神戸市は山と海の迫る立地の特性を生かして別荘・リゾート、港湾を活用した海運や貿易、鉄鋼・造船・船舶などの各種工業そして近年はファッションや医療産業の集積地として現在まで発展してきた。しかしながら今後の人口減、減築、空き家の増加、産業の転換といった社会状況の変化を見越して新しい都市像を描き出すことが必要となる。本課題では神戸の持つ自然条件、景観条件、人、モノ、社会、文化、歴史条件などをふまえて未来の都市像を描き出すことを目指す。

■課題主旨

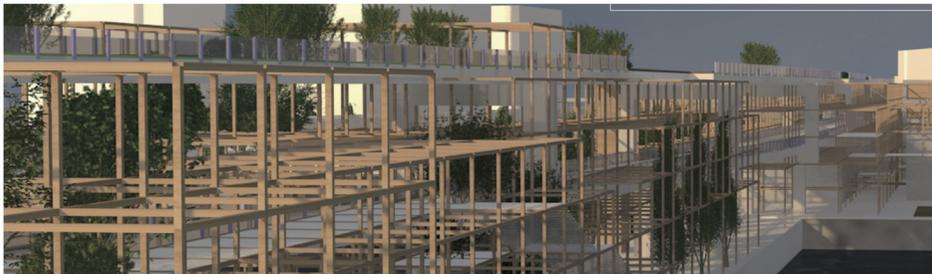
一つの都市は、一曲の交響楽や一篇の詩にぞらえることができるということばは、単なる比喩ではない。これらのものは本質を同じにしているのだから。さらに、恐らくはもっと貴重なことに、都市というものは、自然と人工の合流点に位置しているのである。生物としての歴史を都市の境界の中に包み込み、同時に、思考する存在としてのあらゆる意図で都市を成形している動物たちの教団組織である都市は、その生成においても形態においても、生物学的繁殖と有機体としての進化と美的創造とに、等しく関わりをもっているのである。都市は、自然としては客体であり、同時に文化としての主体である。個であり、集団である。生きられたものであり、夢想されたものである。いわば、優れて人間的なものなのである。

クロード・レヴィ・ストロース「悲しき熱帯」(上)(川田順造訳、中央公論社、1977)

格子構造がうむ立体的なランドスケープの風景

北村友恵

衰退した新湊エリアと三宮エリアの賑わいの間に新しくLRTというインフラを挿入し、駅を中心に多様な諸室を内包した格子構造を立体的なランドスケープとして展開することで、高架橋によって分断されたスケールの異なる既存建築物を緩やかに繋ぐ提案である。



[ゲスト講師者]

福田英明(神戸市建設局公園砂防部計画課)

池本和生(神戸市住宅都市局計画課)

福本一海(神戸市住宅都市局計画課)

神戸の丘と海を望む美しい高低差のある面上の敷地に都市への戦略を保持しつつ微細な空間や環境を併せ持つ魅力的な建築・屋外空間を構想してほしい。新しい都市のライフスタイルや多様なプログラムを許容する空間、様々なスピードや流れに対応するデザイン、高い回遊性をもち、古いものと新しいものや自然、建築とランドスケープの領域を超える、新しい都市のライフスタイルを創造する場所を提案してほしい。

■設計条件キーワード

都市広場、立体公園、水のランドスケープ、アート、回遊性、多様性、丘のランドスケープ、テラス、屋上、半屋外、内部一外部、スポーツ、身体性、速度、アクティビティ、生活、劇場、多機能、変化、時間とプロセス、物語性、水平性と垂直性、都市の庭、歩行者空間、自転車、スケートボード、ウォーターフロント、眺望、階段、ランドフォーム、複層的、人工地盤、都市気候、ゲリラ豪雨、雨水、ファニチャー、ポケットパーク、ウォール、植物都市、パブリック、インダストリアル・ランドスケープ、テクスチャー、記憶、リノベーション、レベル差、スロープ、ショッピング、健康、子供の遊び場、エコロジー、食、高低差、眺望、減災、ショッピング、森、自然と人工物、夜のランドスケープ、光

■最終提出物

A1用紙以下および必要なグラフィックを美しくレイアウトする。

1. タイトル、コンセプト(200字程度)
2. 敷地位置図 - 対象敷地の場所をグループの都市スケールの提案に落とし込んだもの
3. 敷地平面図及び配置図 縮尺 1/100
* 平面図は敷地全体(ランドスケープ)を含むこと
4. 各階平面図 縮尺 1/100
* 平面図はランドスケープを含むこと。家具や屋内外の人の活動が分かるようにすること。
5. 断面図 縮尺 1/100 2面以上
* 建築と敷地全体のランドスケープ、またはその周辺を切ったもの。
6. 立面図 縮尺 1/100
* 建築とランドスケープの関係がわかるもの。
7. 平面詳細図及び断面詳細図 縮尺 1/50 以上
* 上記平面図及び断面図よりデザインの意図を反映する部分を選定し、詳細図の作成をおこなうこと。
8. 建築・ランドスケープと人のアクティビティが分かるパース 3点以上
9. 模型 縮尺 1/100
* 敷地周辺までを含めてつくること
* 建築とランドスケープの両方を表現すること

水辺が紡ぐ新たな日常

森下孝平

阪神大震災の復興住宅とそれ以前からあった住宅のコミュニティの分断をランドスケープで紡いでいく。一本の川で繋がるそれぞれが持つ空地は、コミュニティが形成されるための玄関口となる。水辺で繋がる新たな日常風景が地域に形成される。



NADA PROMENADE 一住民と海を繋ぐランドスケープ

森川潤

様々な開発により住民と海との間に隔たりが生まれた。工場・用水路帯に地域の動線を導き、酒造工場などこの街の個性を生かしたアクティビティを挿入することでこの街に新たな風景を生み出す。地域を繋ぐランドスケープの提案。



流線海岸

崔秋韻

都市から延長され人々の足から遠のいてしまったウォーターフロント。本来ウォーターフロントは人が賑わい憩う場所であったはず。人と海は切り離され、海はただ見るだけの風景になってしまった。単調な海岸線を解体し人々の足が一步ずつ海へ向かう計画。

